



本弘寺別院
秦野市渋沢 1398-12
TEL : 0463-82-9577
✉ honkouji.wakka@gmail.com

こども仏教

ブツダがせんせい

心がふわふわして、
より道ばかりしていると
もとの道にもどれなくなるよ

本をなんさつ読むとか、ドリルを20ページやるとか、毎日家のお手伝いをするとか、もくひょうを立てて、「がんばろう」ときめるのは、とても良いことです。でも、もくひょうをわすれて、あそんでしまうこともあるよね。

心がふわふわして、あそびに夢中になってしまうと、時間がどんどんすぎて、もくひょうが遠くへ行ってしまう。より道ばかりしていると、もとの道になかなかもどれなくなるのと同じです。あとになって、「ちゃんとやってあげればよかった」とくやまないように、もくひょうを立てたら、がんばってやろうね。

永岡書店出版「ブツダがせんせい 心を育てるこども仏教塾」より引用

ブツダは、「大事な目的・目標があるのに道を外して一時の楽しみに心を奪われていると、きっと後悔する」という言葉を残しています。

まさに『浦島太郎』の物語と同じですね。つい、子どもたちに後悔してほしくないからこそ、口うるさく言ってしまいますが、後悔や失敗をした時でしか気付けないことも多くあります。そんな時に、人や周りのせいにする人ではなく、しっかりと事実を受け止められる人になって欲しいと願っています。 坊守

立秋とは名ばかりで、今年も猛暑が続いておりますが、皆さんお変わりございませんか。来月は、早いもので秋のお彼岸を迎えます。「暑さ寒さも彼岸まで」というように季節の変わり目ですので、体調など崩されませんようお気を付けください。

お彼岸法要を執りおこないますので、ぜひお揃いでお参りくださいませ。

過去帖や法名軸、お位牌をお持ちくだされば、ご尊前にお供えいたします。



お願い
法要に関するご質問・ご相談は、お寺にお問合せくださいますようお願いいたします。

お彼岸法要のご案内

とき 9月23日(秋分の日)
一座目 11:30~12:30
二座目 13:30~14:30
ところ 富鶴浄苑 2階 礼拝室

午前・午後どちらかご都合の良いほうに、ご参詣くださいませ。

蓮之園のお彼岸法要

とき 9月23日(秋分の日)
10時00分~11時00分

場所につきましては、礼拝室を予定していますが、当日、皆さんとご相談させていただければと思います。

みんなの掲示板

カエルのストラップ
シジミ貝を布でくるんで、目と口をつけて完成です!!
なんとも愛嬌のあるカエルと一緒に作りませんか?



日時: 9月3日 13:00~
場所: 富鶴浄苑 2階
持ち物: 洗濯ばさみ2個

法話会のお知らせ

❖持ち物:お念珠 ❖費用:お賽銭箱に100円~1000円程度を入れてください

今後の法話会スケジュール

富鶴浄苑 14:00~ 本弘寺別院 11:00~
9月3日・10月1日 9月18日・10月18日

正しい作法 ~ お焼香 ~

ご葬儀やご法事などでお焼香をする場面がありますが、前の方をマネしていませんか? 浄土真宗お東におけるお焼香作法をお答えします。

1. 焼香機の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎます。
2. 香盒(香入れ)の蓋を開けて、香盒の右隣に置きます。
※蓋は香盒のフチに掛けたり、裏返しに置いたりしません。
3. お香を二撮(二回)香炉にくべます。
※お香をつまんで額におし頂いたりせず、そのまま香炉へくべます。
4. 焼香後、香盒の蓋はそのままにし、お香の乱れを指先で直し、合掌します。
※後にお焼香をする方がいなければ、お香の乱れを直し、蓋を閉め合掌します。
5. 合掌をしたまま「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えて礼拝します。



ものさしのいらない世界

「西方極楽浄土」といい、昔から太陽がちょうど真西に沈む春・秋分の日をお彼岸の中日とし、お浄土を意識する日となりました。お浄土のことを彼岸、この世のことを此岸(しがん)といいます。お浄土とはどのようなところでしょうか。

高山市にあるお寺の坊守(住職の妻)さんが、39歳の時にガンの告知を受け、3人子どもたちに遺した手記があります。NHKの「こころの時代」でも紹介され反響を呼びました。その中で、お浄土について子どもたちに、次のように教えています。

人間の持っている価値観(ものさし)は、時にはどんな恐ろしいこともします。(中略)どうか忘れないで下さい。自分も、このものさしを持った人間であるということ。いつでも、どんなときでも、自分は、ものさしを使ってものを考え、他を判断し、行動しているのです。どうあがいても、このものさしから一歩も出ることの出来ない私たちなのです。

ただ、ありがたいことに、ものさしを持つ自分の姿を確かに知ることが出来た時、人は同時に、ものさしのない世界を知り、その世界に触れることが出来るのです。浄土真宗では、このものさしのいらない世界を、阿弥陀の世界、浄土と申しております。人は自分のものさし(価値観)を決して捨てることは出来ないけれども、浄土に触れることにおいて、ものさしを武器として、他を傷つけずにおれない自分の存在を悲しみ、その愚かさ気づかされることにより、まわりに対して、『ごめんなさい』『ありがとう』と、言わずにはおれない人の心を取り戻すことが出来るのです。

平野恵子著『こどもたちよ、ありがとう』より

人は、経験や知識の中から自分のものさしを使って、善悪・損得・優劣を分別し、それを捨てることができません。できないからこそ、そこに人間の悲しみ情けなさに気付かされます。

それに気づかせてくれるものこそ、「ものさしのいらない世界」です。その世界に触れた時、私たちは初めて心の目を開くことができるのです。先に歩まれた方々をご縁としてお彼岸を迎えさせていただきますましよう。